

静岡県 新型コロナウイルス
【デルタ株以前】の罹患後症状
(後遺症) アンケート調査結果
(2022年4月15日時点)

静岡県健康福祉部 新型コロナウイルス対策企画課

今回の調査結果について

対象

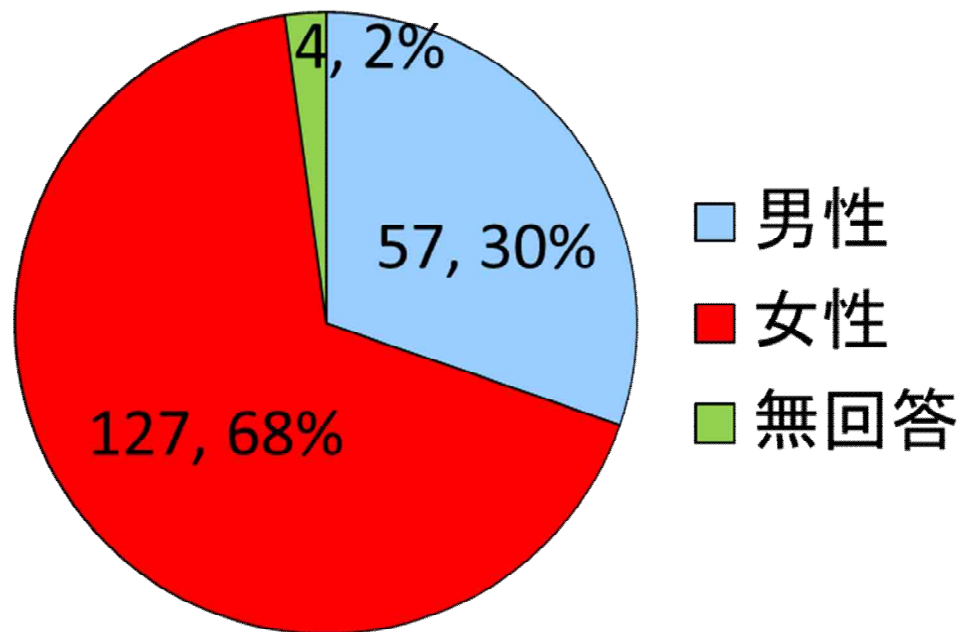
静岡県ホームページで2021年12月6日から実施している「静岡県新型コロナウイルス感染症の後遺症についての実態調査【県民向け】」に、2021年12月6日～2022年4月15日に回答した者のうち、2021年12月以前に新型コロナウイルスに感染した（陽性確認された）188人。

この188人については、感染時期から新型コロナウイルスのデルタ株、アルファ株そして従来株のいずれかに感染したと判断し、デルタ株以前の新型コロナウイルスの罹患後症状（後遺症）として、回答結果をまとめた。

本調査の罹患後症状（後遺症）の定義

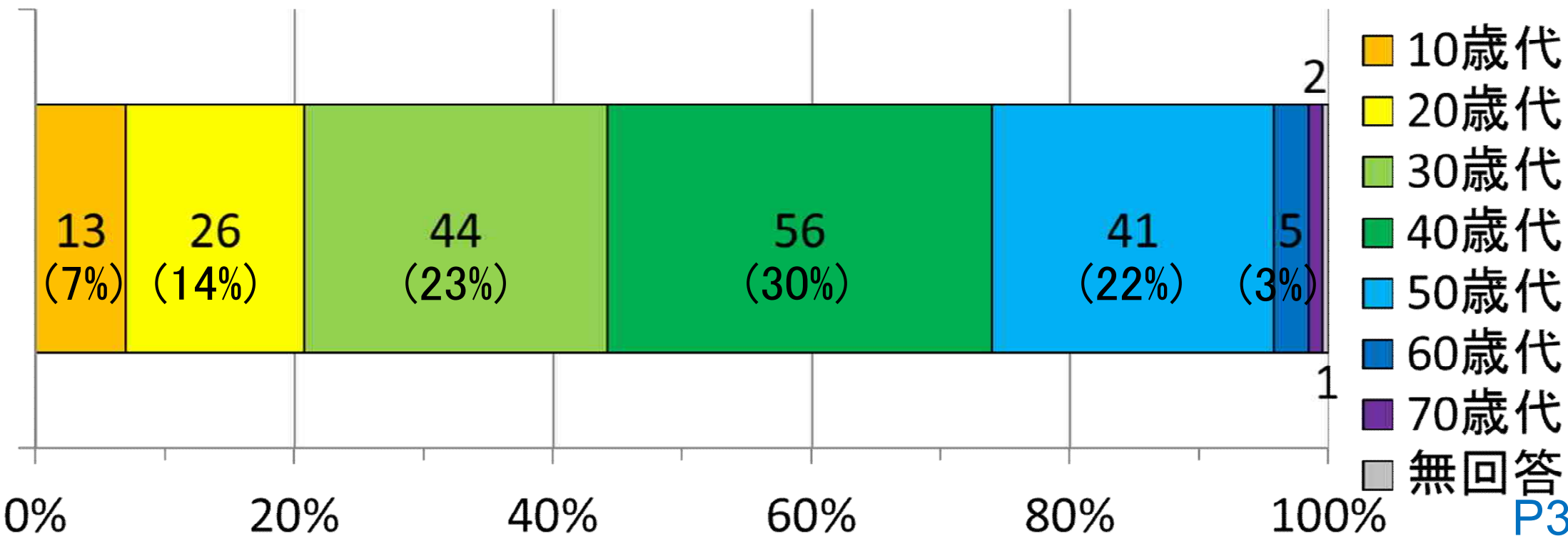
新型コロナウイルス感染症に感染後、4週間以上症状が持続し、その他の疾患では説明がつかないもの

回答者188人の性別と年代



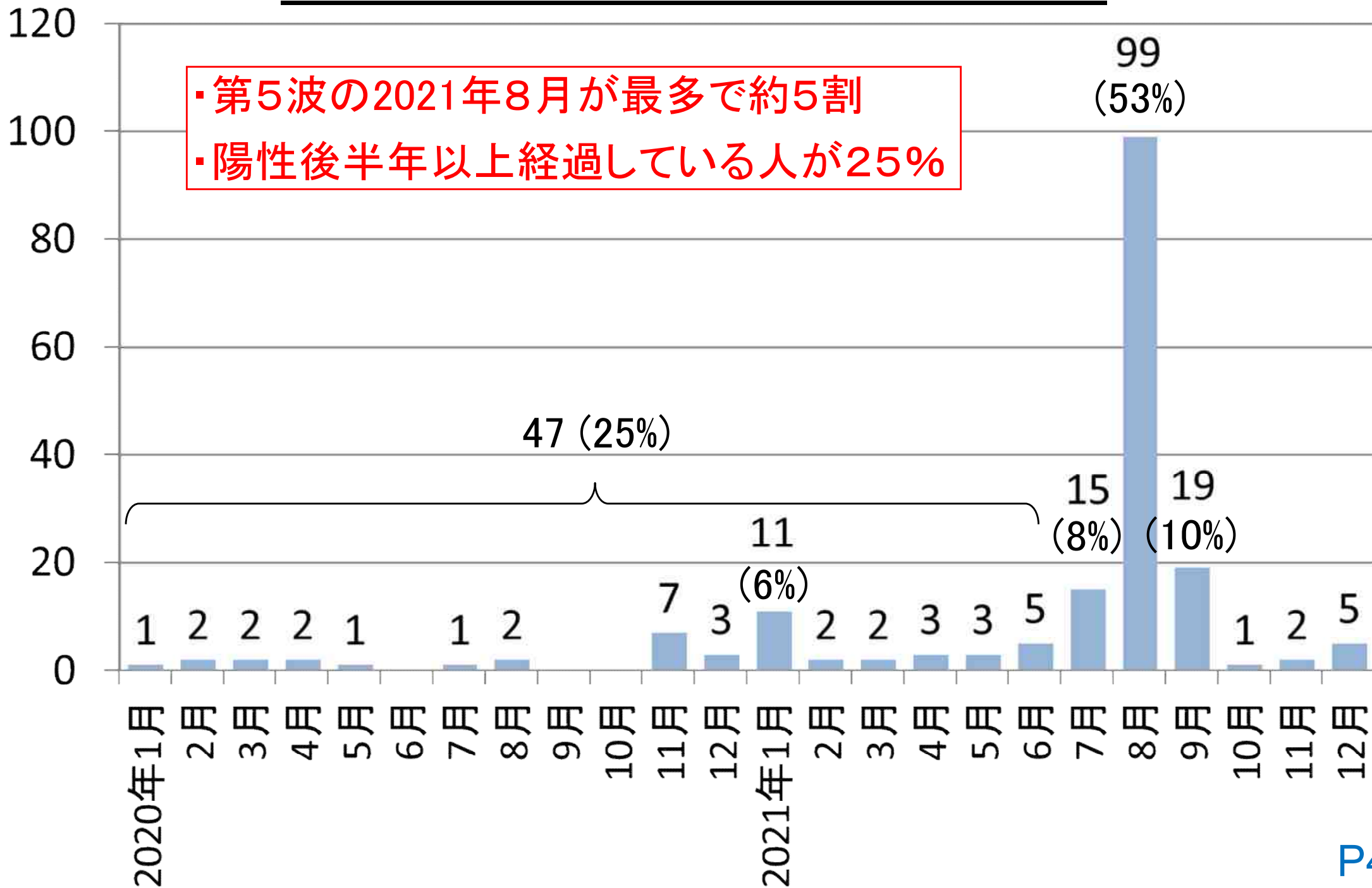
- ・回答言語は、

日本語	175人
やさしいにほんご	9人
インドネシア語	3人
ベトナム語	1人
- ・女性が約7割
- ・40歳代、30歳代、50歳代の順に多く、この3年代で約4分の3

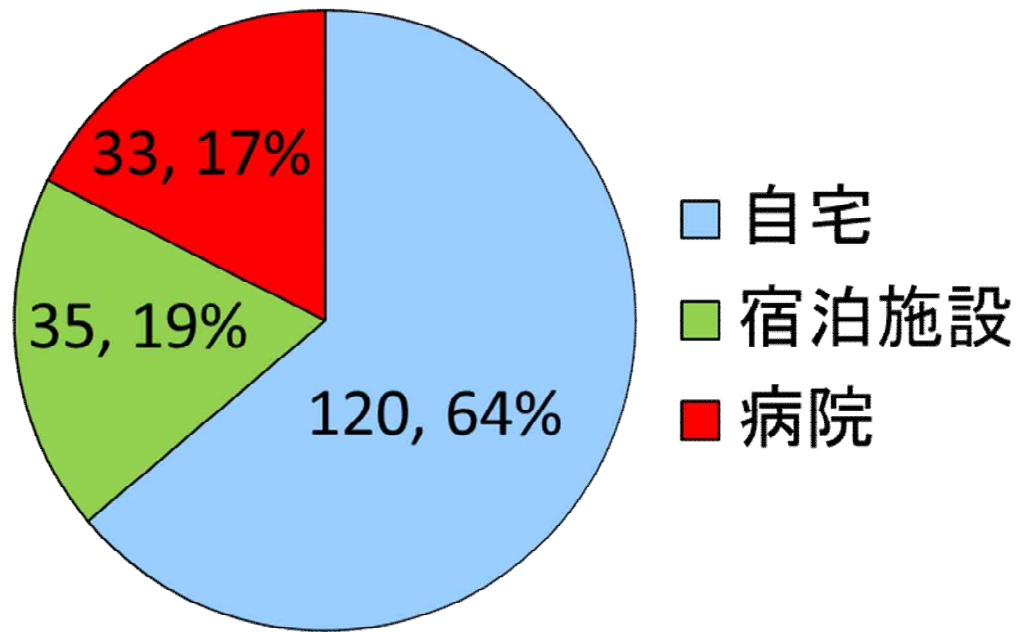


回答者のコロナ陽性確認時期

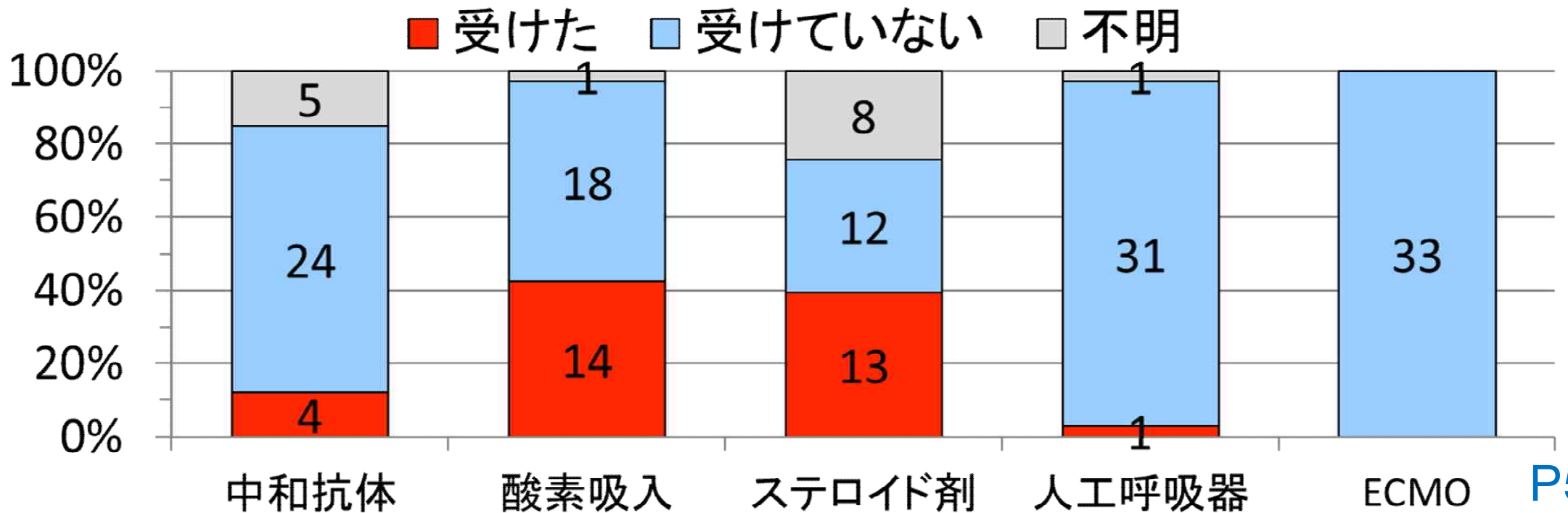
- ・第5波の2021年8月が最多で約5割
- ・陽性後半年以上経過している人が25%



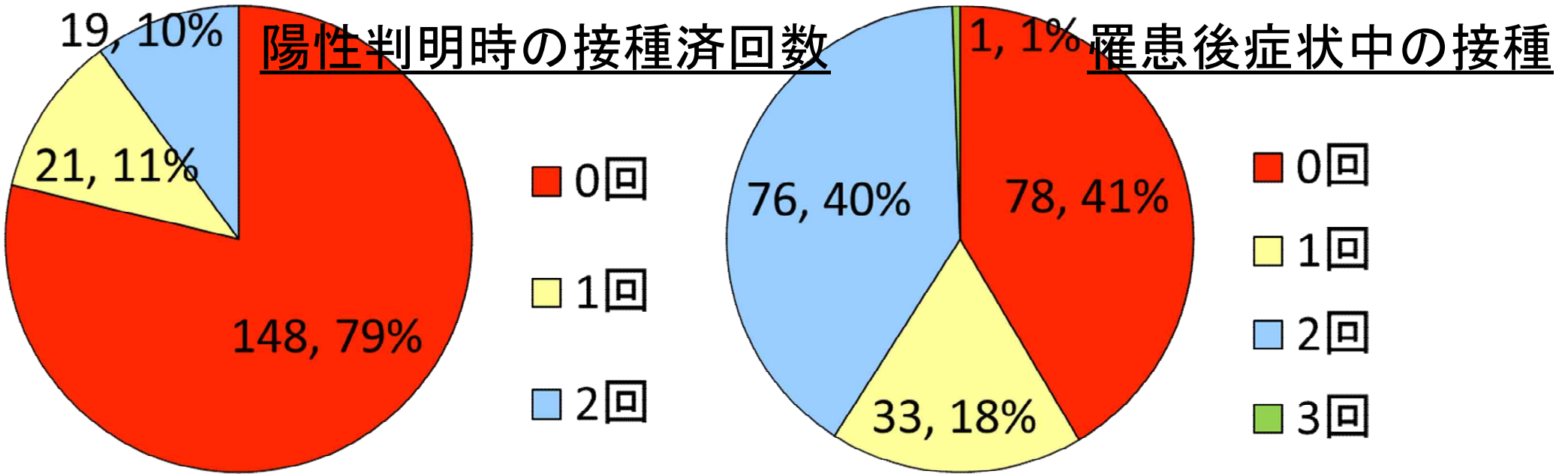
回答者の療養場所と治療内容



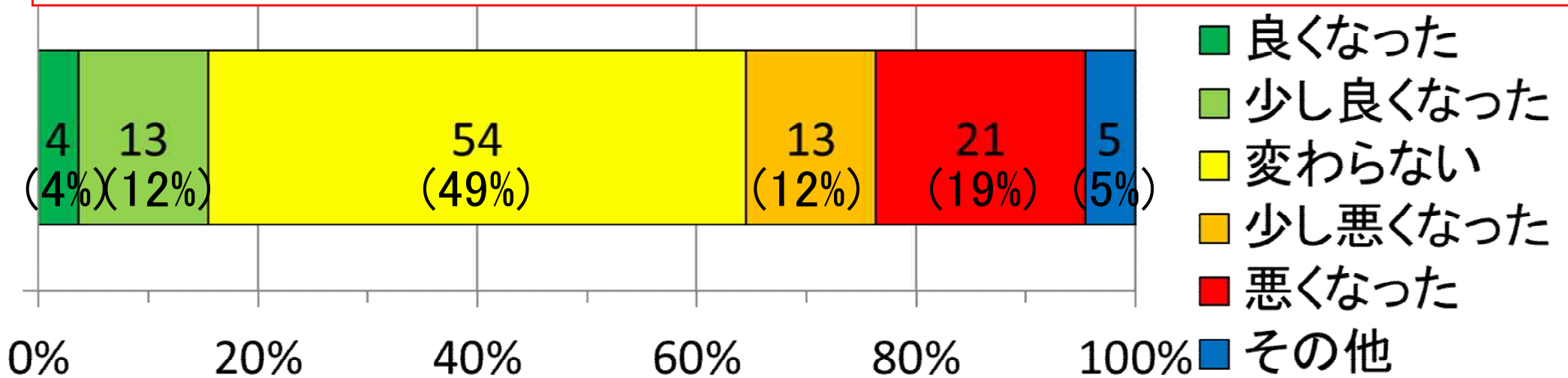
- ・自宅療養が最多で約6割
- ・入院者33人うち、中和抗体療法4人、酸素吸入14人、ステロイド剤13人
- ・人工呼吸器管理となった人が1人、ECMOによる治療を受けた人はいなかった



回答者のワクチン接種状況と接種後の罹患後症状の変化



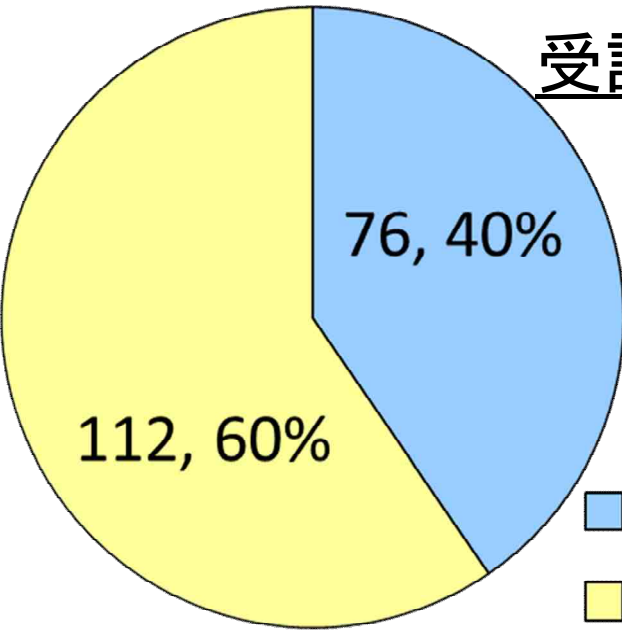
- ・陽性判明時の接種回数は、0回が最多で約8割
- ・罹患後症状のある状況で、1回～3回接種した人が約6割
- ・接種後の罹患後症状の変化は、改善約2割、不変約5割、悪化約3割



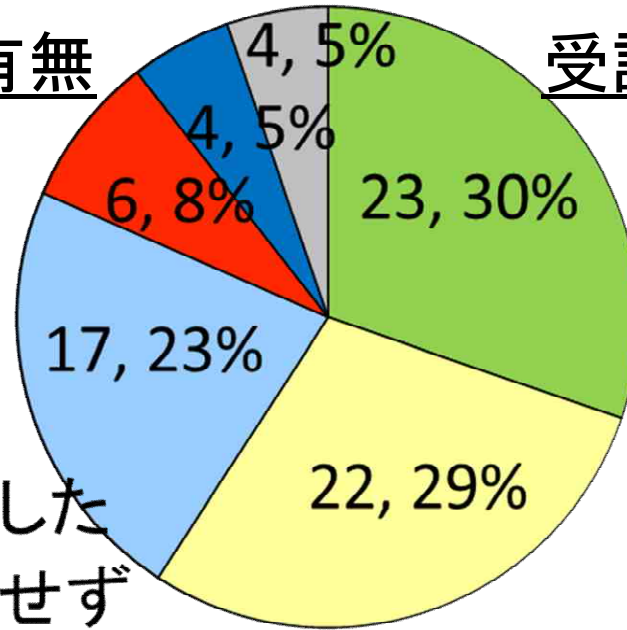
回答者の受診状況

受診の有無

受診した医療機関



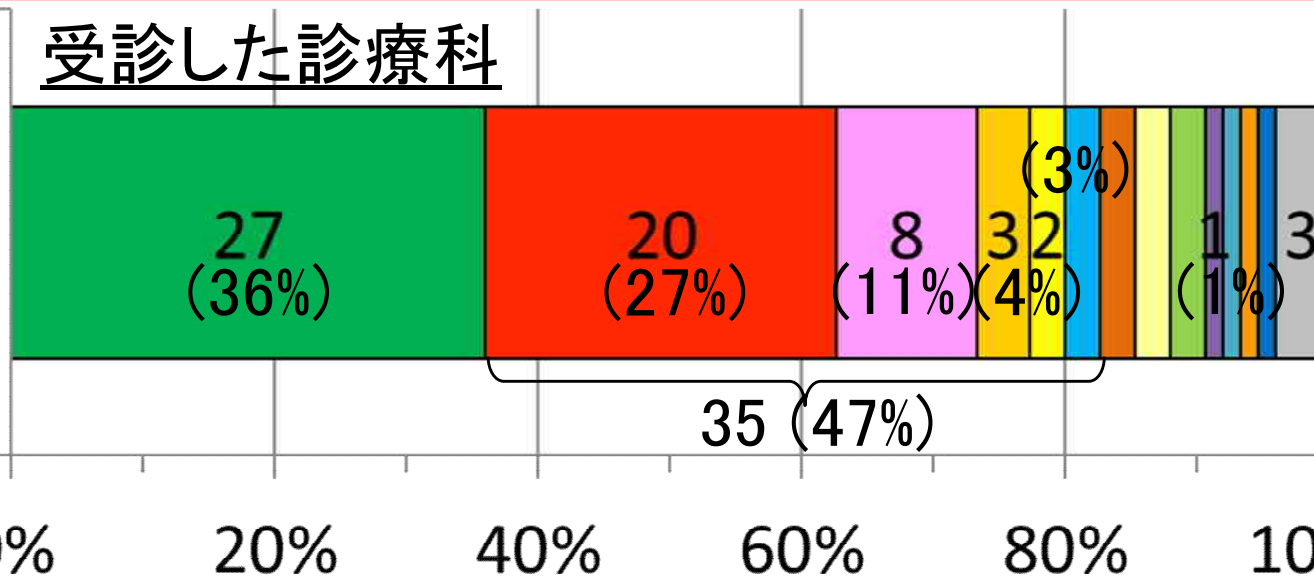
■ 受診した
■ 受診せず



■ その他の近隣の医療機関
■ かかりつけ医
■ 後遺症専門外来
■ コロナを治療した医療機関
■ 陽性の診断を行った医療機関
■ その他(複数2人,勤務先,オンライン)

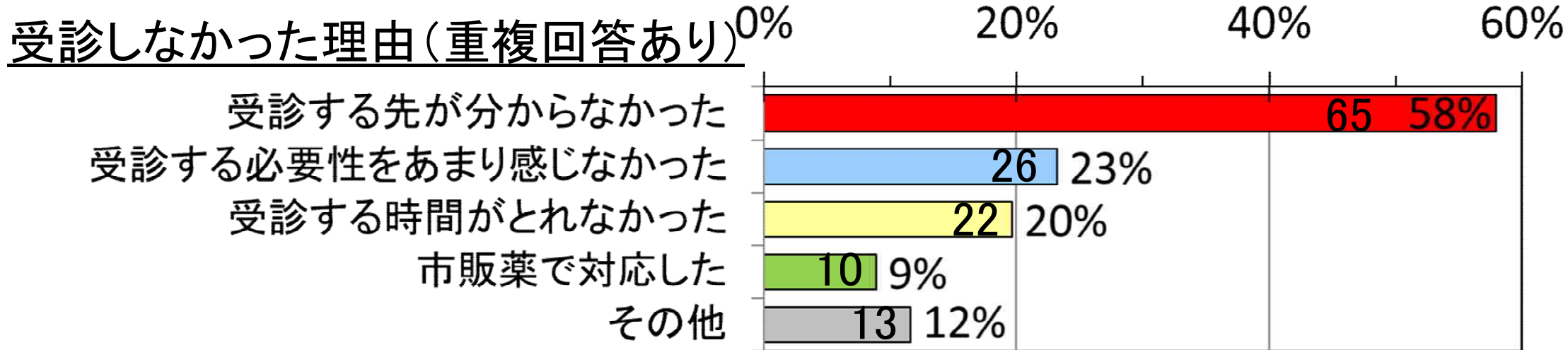
- ・約4割が医療機関を受診し、その各約3割はかかりつけ医と近隣医療機関
- ・受診した診療科は、内科系が最多で約5割で、次いで耳鼻科で約4割

受診した診療科



■ 耳鼻咽喉科 ■ 内科
■ 呼吸器内科 ■ 循環器内科
■ 神経内科 ■ 総合診療科
■ 皮膚科 ■ 精神科
■ 小児科 ■ 眼科
■ 外科 ■ 脳神経外科
■ 整形外科 ■ 記載なし

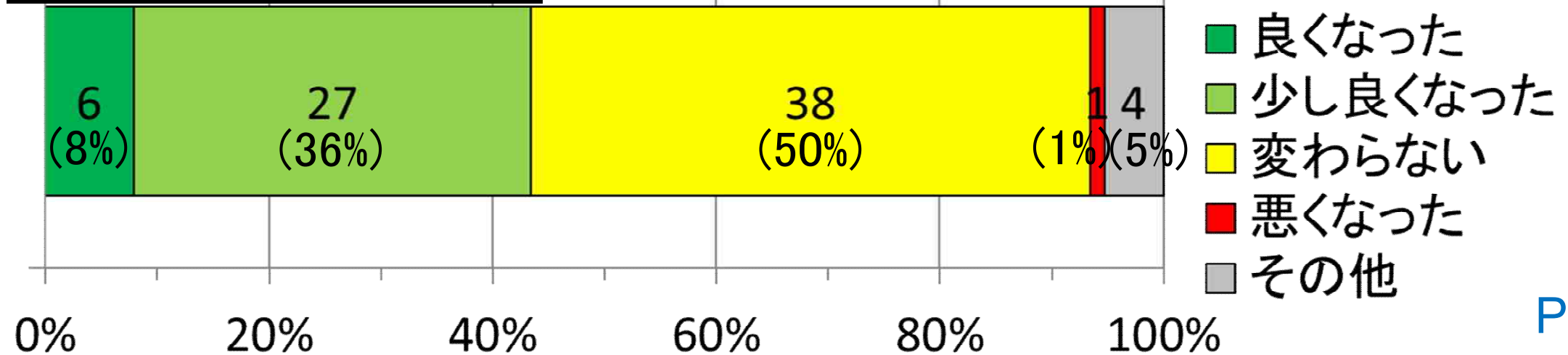
受診しなかった理由、受診した後の変化



その他; 自然に治ると思った(4人)、罹患後症状(後遺症)と分らず(2人)、医療費がかかる、軽度だった、近くに後遺症外来がなかった、様子を見た、知人の医師に相談した、受診の予約が取れなかった、治療法が未確立(各1人)

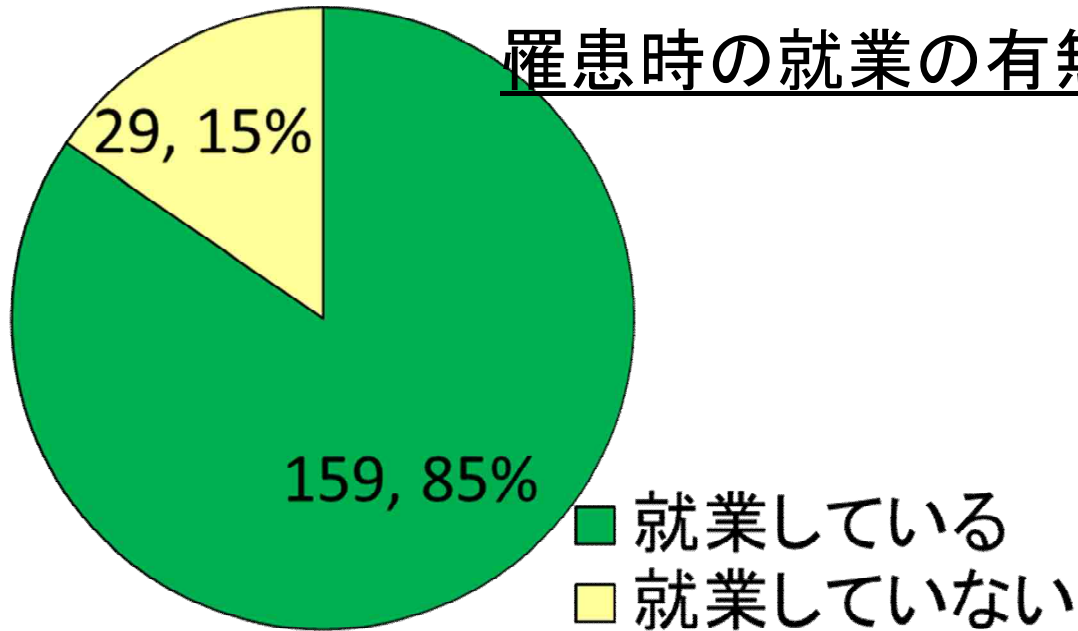
- ・約6割が受診先が分からず、受診しなかった
- ・受診後、改善したのは約4割で、約6割は改善しなかった

受診した後の症状の変化

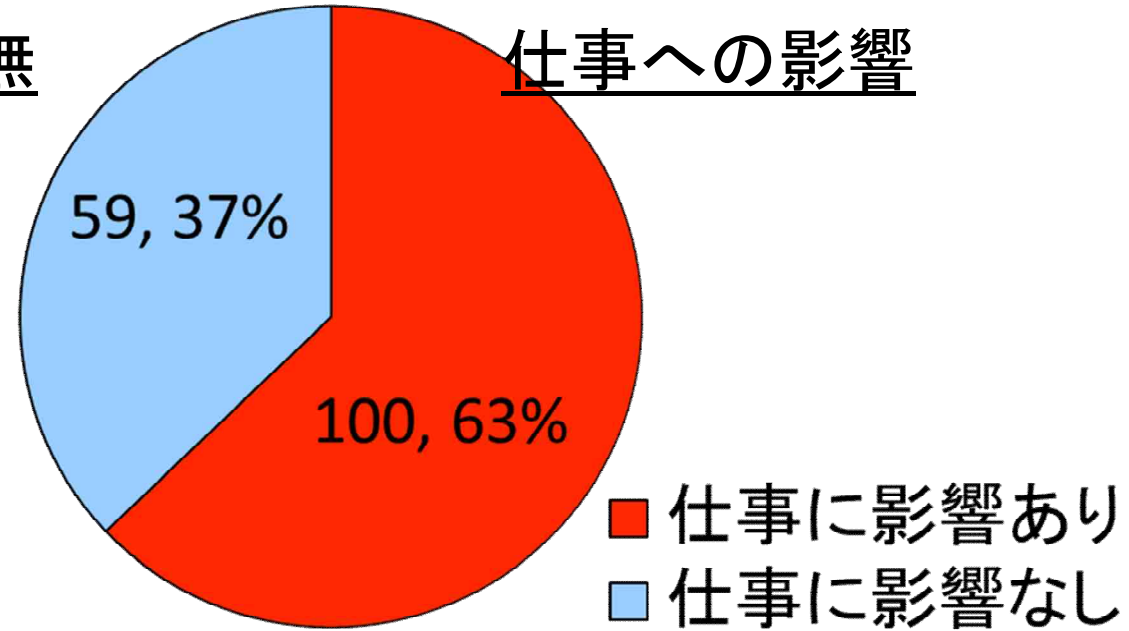


罹患後症状の仕事への影響

罹患時の就業の有無

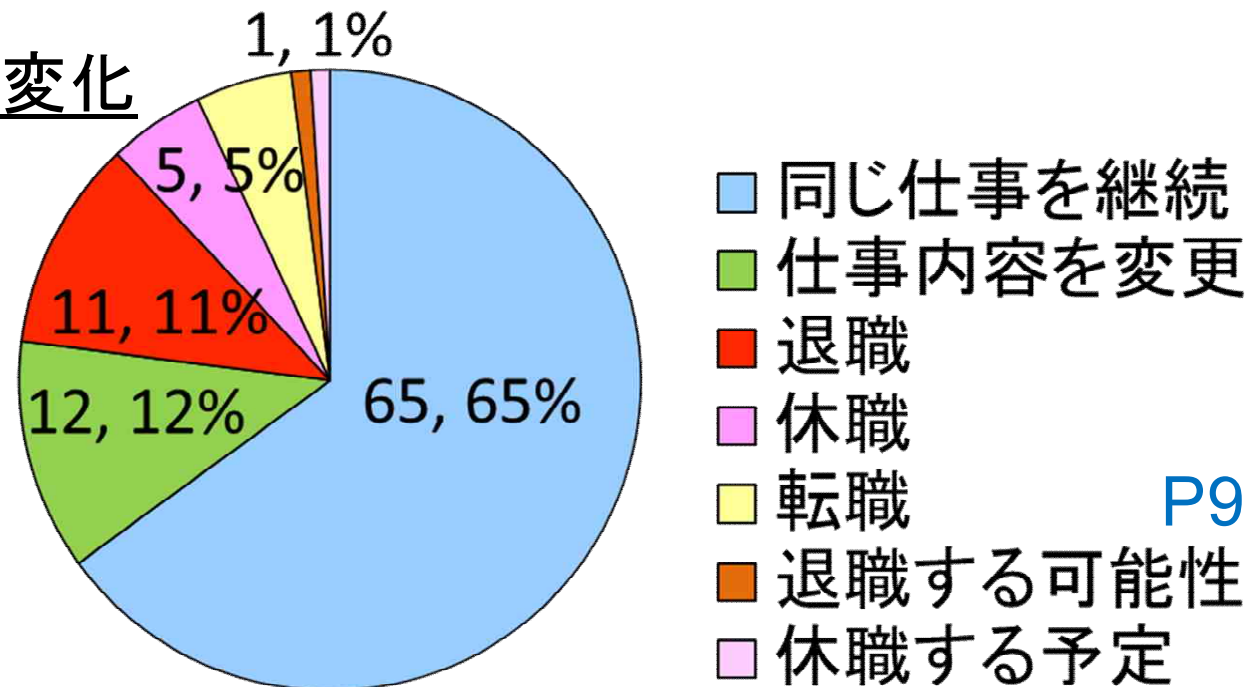


仕事への影響



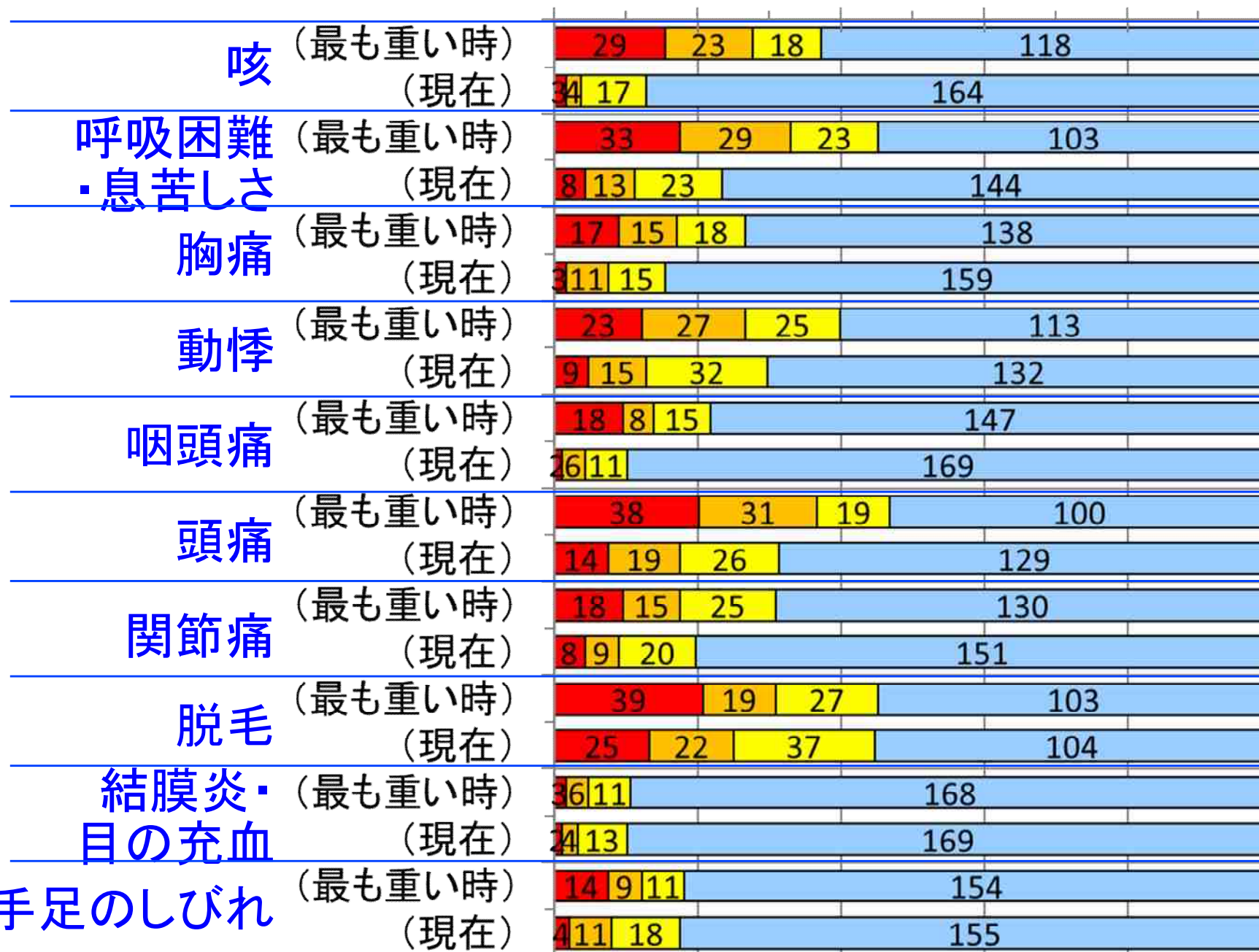
罹患後症状による仕事の変化

- ・罹患時就業していた人のうち約6割で、罹患後症状による仕事への影響があった
- ・仕事に影響があった人のうち約3分の1が仕事の内容を変えたり、休職・退職・転職をしていた



症状のつらさの変化(最も重い時と現在の症状)①

0% 20% 40% 60% 80% 100%



- 非常につらい
- つらい
- ややつらい
- 症状なし

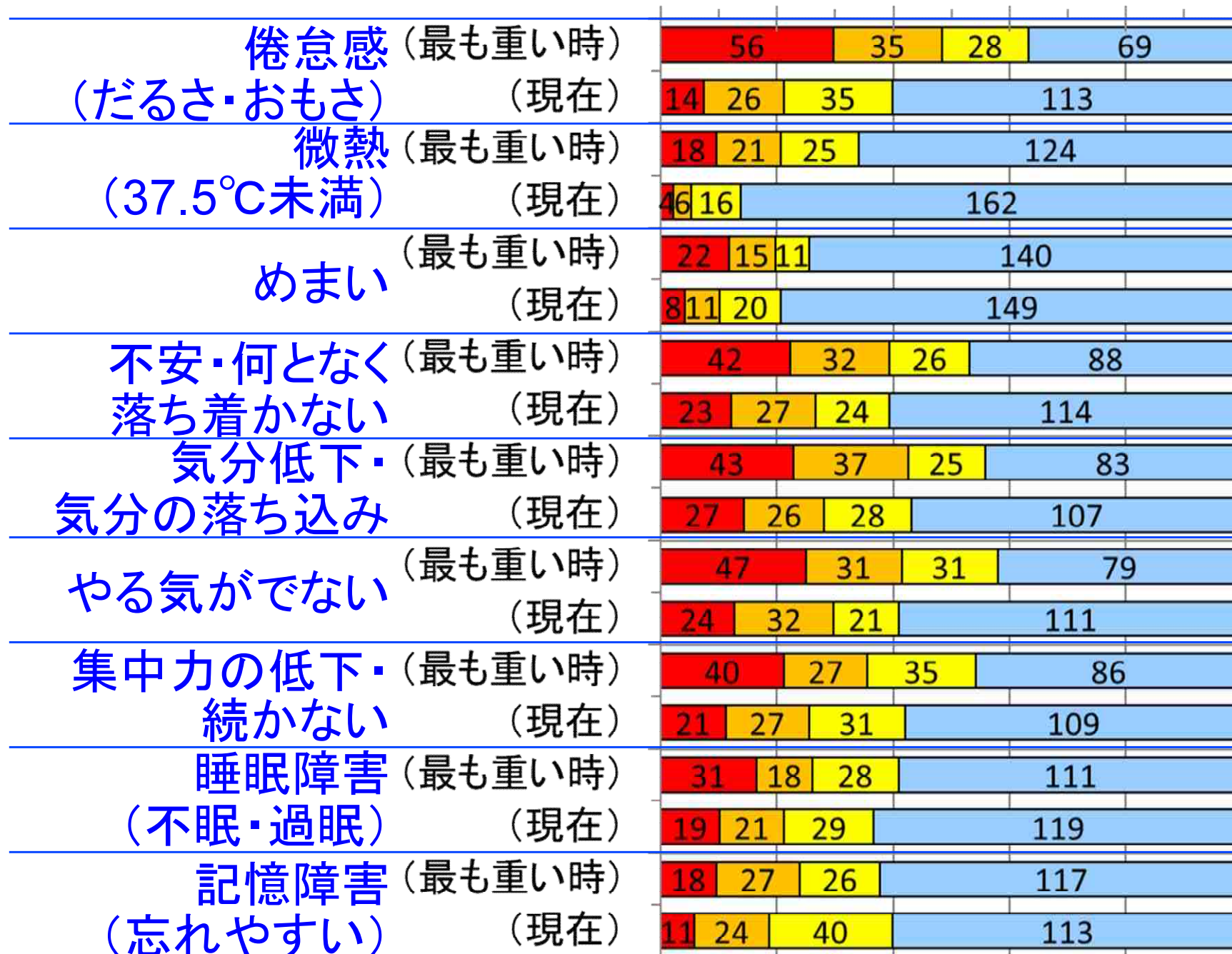
動悸、頭痛、脱毛は、最も重い時と較べて、症状のつらさの改善が乏しく、回答時も3~5割につらさが残る

(バーの数字は人数)

症状のつらさの変化(最も重い時と現在の症状)②

0% 20% 40% 60% 80% 100%

P11

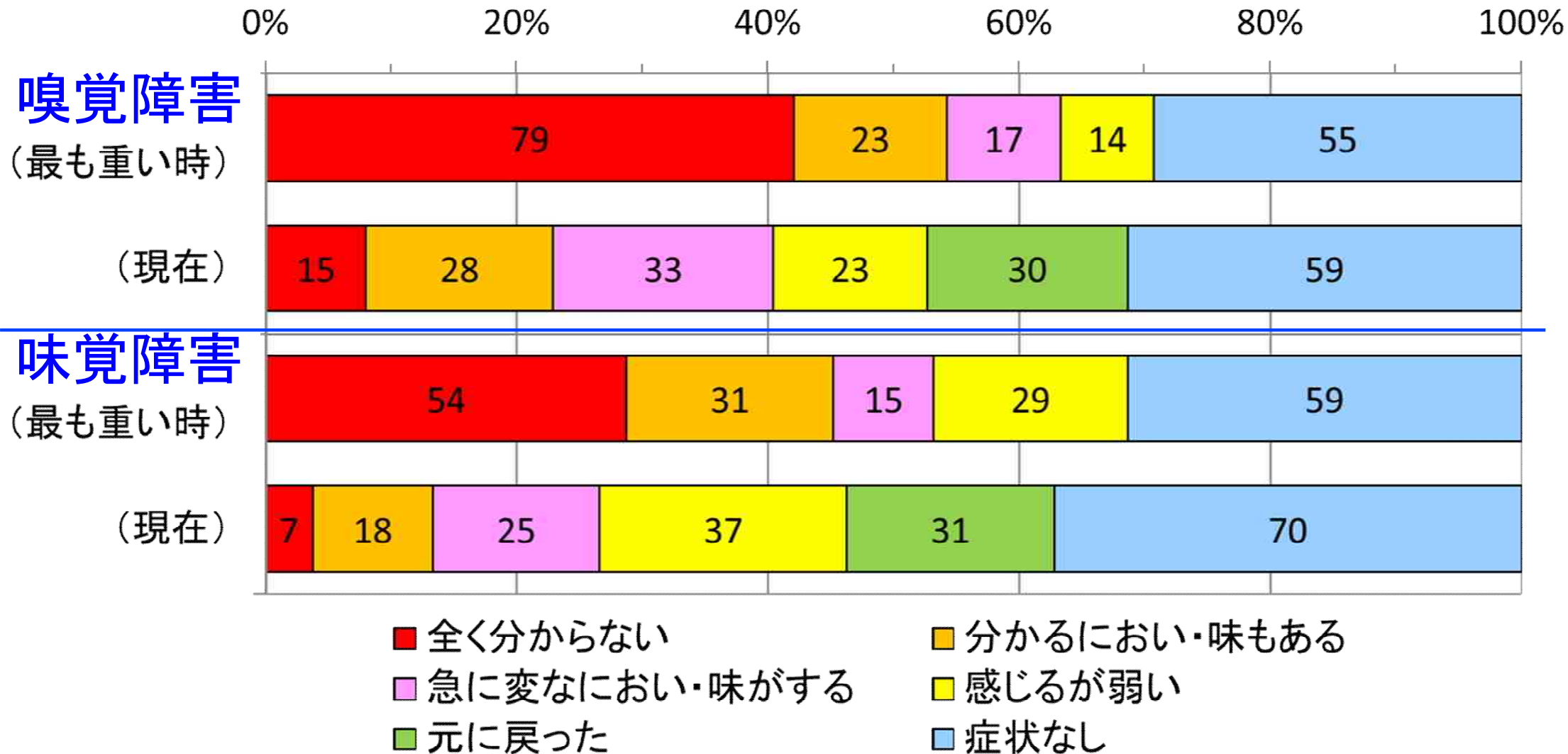


- 非常につらい
- つらい
- ややつらい
- 症状なし

倦怠感、不安、気分低下、やる気が出ない、集中力低下、睡眠障害、記憶障害は、症状のつらさの改善が乏しく回答時も約4割につらさが残る

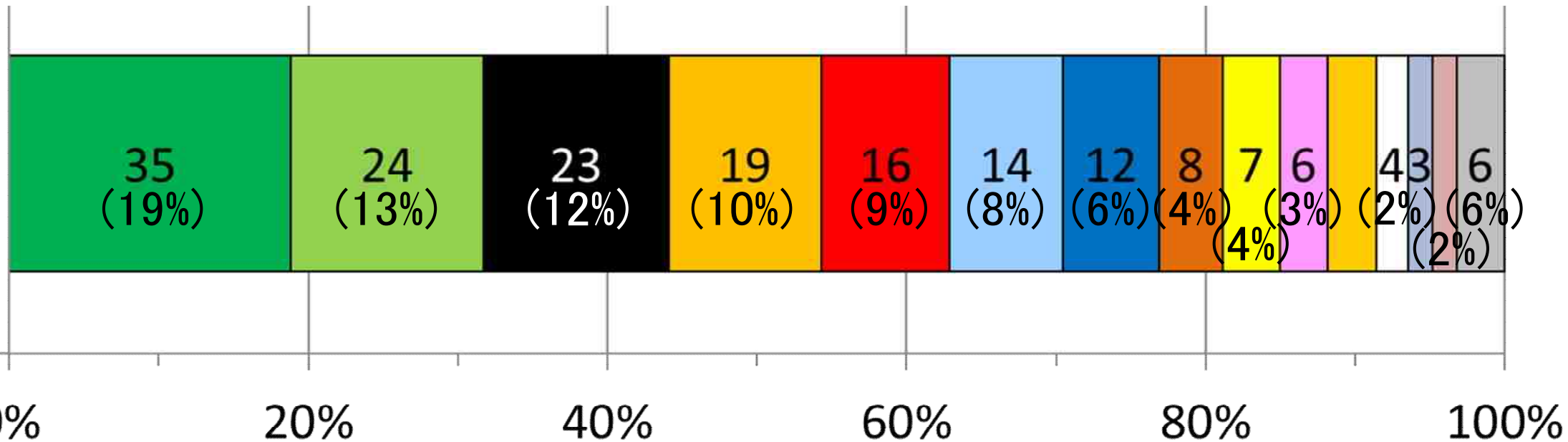
(バーの数字は人数)

症状のつらさの変化(最も重い時と現在の症状)③



- ・嗅覚・味覚障害は、最も症状が重い時には全体の約7割に達する
- ・嗅覚・味覚障害は、全体の約半数で回答時も続いている

回答者の一番つらかった症状



- 嗅覚障害
- 味覚障害
- 脱毛
- 倦怠感
- 呼吸困難・息苦しさ
- 頭痛
- 咳
- 動悸
- めまい
- 睡眠障害
- 記憶障害
- 気分低下・気分の落ち込み
- 集中力の低下・集中力が続かない
- 手足のしびれ
- その他 { 不安・落ち着かない、微熱; 各2人
結膜炎(目の充血)、胸痛、やる気がでない、関節痛; 各1人

一番つらかった症状としては、嗅覚・味覚障害と脱毛が多かった

まとめ

1. 2021年12月6日～2022年4月15日の回答者のうち、新型コロナウイルスの陽性が2021年12月以前に確認され、デルタ株以前の感染と推定される188人のうち、女性が約7割を占めていた。年代は、40歳代、30歳代、50歳代の順で多く、この3年代で約4分の3を占めていた。
2. 陽性確認時期は、第5波の2021年8月が最多で約5割だが、陽性後半年以上経過している人も約4分の1であった。
3. 療養場所は、自宅療養が最多で約6割であり、入院者の約4割で酸素、ステロイド剤の投与を受けており、人工呼吸管理の人も1人いたが、ECMOを受けた人はいなかった。
4. 陽性判明時のコロナワクチン接種回数は0回が最多で約8割であり、罹患後症状のある状況で接種した人は約6割で、接種後の罹患後症状の変化は、改善が約2割、不変が5割、悪化が約3割であった。
5. 約4割が医療機関を受診し、その約3割ずつがかかりつけ医か近隣の医療機関であり、受診した診療科は、内科系が最多で約5割、次いで耳鼻科で約4割を占めていた。一方、約6割が受診先が分からず受診しておらず、受診した場合も改善した者は約4割。
6. 罹患時就業していた人の約6割で罹患後症状による仕事への影響があり、そのうち約3分の1が仕事の内容を変えたり、退職・休職・転職したりしていた。
7. 動悸、頭痛、脱毛、倦怠感、不安、気分低下、やる気が出ない、集中力低下、睡眠障害、記憶障害は、最も重い時と較べて回答時の症状のつらさの改善が乏しく、回答時に3～5割につらさが残っていた。
8. 嗅覚・味覚障害は、最も症状が重い時には全体の7割が経験し、全体の約半数で回答時も続いていた。
9. 一番つらかった症状は、嗅覚障害が約2割で最多で次いで脱毛と味覚障害が多かった。